

# 日本教育工学会全国大会原稿テンプレート

How to Write Your Paper for the JSET Research Reports

日本 太郎\*<sup>1</sup>

Taro NIHON\*<sup>1</sup>

教育 次郎\*<sup>1, \*2</sup>

Jiro KYOUIKU\*<sup>2</sup>

工学 花子\*<sup>2</sup>

Hanako KOUGAKU\*<sup>2</sup>

日本教育大学\*<sup>1</sup> 日本市立工学小学校\*<sup>2</sup>

Nihon Kyoiiku University\*<sup>1</sup>

Nihon City Kougaku Elementary School\*<sup>2</sup>

<あらまし> 日本教育工学会は、年2回の全国大会を開催している。発表原稿は、「日本教育工学会講演論文集」として公開される。原稿は、この原稿テンプレートに従って執筆することが求められる。大会HPにある「発表について」を確認し、期日までにオンラインでPDF形式のファイルにて提出する必要がある。ここには抄録を和文200字程度で記述する。

この段落のスタイルは「あらまし」に設定されている。

<キーワード> 教育工学、全国大会、原稿テンプレート

## 1. はじめに

日本教育工学会全国大会では、教育工学に関する研究を発表することができる。発表原稿は、原則、本原稿テンプレートをもとに作成する。提出されたファイルが原稿テンプレートに沿っていない場合、大会企画委員会は修正依頼を行うことがある。なお、個人的な差し替え依頼には原則対応しない。

原稿はあるレベルで完結した内容であることを求める。「結果は当日会場で発表する」等の書き方などに対しては、大会企画委員会で判断し、修正を求める場合がある。また、類似の内容やシリーズ的な内容を、複数の発表者に分割して申し込むことはできない。

なお、講演論文集の発行日は、事前申込者がダウンロード可能になる日である。さらに提出された原稿について、学会がWebサイト等に掲載することを許諾して頂く。その他、原稿作成の詳細は、次章以降の通りである。

著作権、他者の人権等への配慮、引用の表記、参考文献の形式等の詳しい内容については、「日本教育工学会論文誌」の投稿規定、投稿の手引、および論文テンプレートに準ずる。

## 2. 原稿ファイルの作成と提出

### 2.1. 原稿テンプレートの書式

本原稿テンプレートの題名、著者名、章・節・項の見出し、本文については、フォントサイズや段組みなどの書式が設定されている。

### 2.2. フォント、段組み

和文題目はMSゴシック（英数字もMSゴシック）の16ポイント、英文題目はMS P明

朝の11ポイント、和文著者名と和文所属はMS明朝の12ポイント、英文著者名と英文所属はMS P明朝の10ポイントとなっている。

章見出しはMSゴシックの10.5ポイント、節見出し・項見出しはMSゴシックの10ポイントとなっている（英数字もMSゴシック）。本文は、MS明朝の10ポイントとなっている（英数字はMS P明朝）。題目、章や節、項の見出しが長く、複数行に渡る場合は、適当な箇所で行（Shift+Enter）し、見やすいように調整する。各段落の冒頭は、全角1文字分字下げして書き始める。

本文の段組みは2段組で、1行あたり20字、1ページあたり50行に設定されている。この書式を崩さずに原稿を作成することで、1行の文字数、1ページの行数等が定められた形式での執筆が可能となる。

### 2.3. 書式を崩さない方法

書式を崩さないために、以下の2点に注意する。

(1) 他のWordファイルから文章をコピーして貼り付ける場合は、書式と一緒に貼り付けないように注意する。元の文書で文字列をコピーした後、本原稿テンプレートに[ホーム]>[形式を選択して貼り付け]>[貼り付ける形式]の「テキスト」を選択する。

(2) 書式を崩してしまった場合は、段落内にカーソルを置き、[ホーム]リボンメニューの[スタイル]ボックスから、指定したいスタイルを選択する。

## 3. 執筆の手引

### 3.1. 原稿のページ数とファイル形式

### 3.1.1. ページ数の制限

投稿できる原稿ページ数は、2ページである。3ページ以上または1ページ以下となる場合は受理できない。なお、ページ番号は付けない。

### 3.1.2. PDF ファイル作成の注意点

原稿ファイルは PDF 形式に変換して投稿する。Word ファイルから PDF ファイルに変換する際は、図表や画像の品質が極端に落ちないように設定する。

また、Word ファイルから PDF に変換した際に、図表中の文字が化けたり、ページ中の文字が抜け落ちたりする現象が確認されている。PDF 変換後に必ず内容を確認する（大会企画委員会では確認しない）。

## 3.2. 原稿の冒頭

### 3.2.1. 題名

原稿の題名は、原稿の内容が明確に分かるようにし、「第〇報」等は含めない。

英文題目は、前置詞等を除く各単語の先頭文字は大文字とする。

### 3.2.2. 著者名、所属機関

著者名、所属機関には、\*<sup>1</sup>,\*<sup>2</sup> のように「\*」と「数字」を上付きで表記する。

英文著者名はファーストネームを最初に記述し、ラストネーム（ファミリーネーム）のみすべての文字列を大文字で記す。

所属機関として、機関名のみを記す（大学の場合は「〇〇大学」まで。この点は論文誌や研究報告集と異なる）。

### 3.3. あらましとキーワード

あらましは、<あらまし>の後に全角スペースを1文字入れた後に200字程度で記述する。キーワードは、<キーワード>の後に全角スペースを1文字入れた後、5～6語程度をカンマ（,）で区切って並べる。

### 3.4. 本文の記述

筆者の主張を読者に正確に伝えるために、以下の点に注意する。

(1) 本誌読者の多様な専門的背景を念頭に置き、記述は簡潔かつ明瞭にする。

(2) 当用漢字、現代かなづかいを用いる。

(3) 数字は算用数字を使用し、一桁数字は全角、二桁以上の数字は半角とする。

(4) 句読点（、および．）は全角とする。ただし、参考文献については、句読点（、および．）は半角とする。なお、外国語を表記する場合にあって、その語の一般的な表記法において単語間や句読点の後に半角スペースが必要な場合は、その慣行に従う。

(5) 上付き、下付きの文字（例． $\chi^2$ 検定）を設定する。

(6) 本文および図表での統計記号（例． $p$ ,  $t$ ,  $F$ ,  $SD$ 等）はイタリック体にする。

(7) 固有名詞以外の外国語は、できる限り訳語を用い、必要な部分は初出の際のみ原綴を付する。たとえば、CAI (Computer Assisted Instruction) のように表記する。英文題目には、略語表記ではなく原綴で表記する。キーワードに用いた場合には、本文初出時に原綴を付する）。

## 3.5. 図表、写真

図1、表1、写真1のように一連番号をMSゴシックで記述すると共に、必ず題名を付す。図表・写真番号とタイトルの間には全角スペースを挿入する。図と写真の場合は図、写真の下に、表の場合は表の上に記載する。なお、番号の数字の表記は、本文と同様に一桁は全角、二桁は半角で示す。本文中で図表・写真について言及するときは、上記のようにゴシックにて表記する。

図表・写真はカラーで表示してもよい。図表および写真は、原則、ページの左上、右上、左下、右下の四隅に配置する。見やすく理解しやすい図表、写真を掲載するために、図表中の文字が本文に比べて極端に小さくならないよう注意する。また、表1に示す通り、表中のフォントは、基本的にMS明朝とする。

## 3.6. 参考文献

引用および参考文献については、「日本教育工学会論文誌 執筆の手引（<https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/>）」を必ず参照いただきたい。

本文中で参考文献を引用する際は、著者の人数によって表記が異なる（表1）。

本文中で引用した参考文献は、原稿の最後に著者の苗字のアルファベット順で一括して

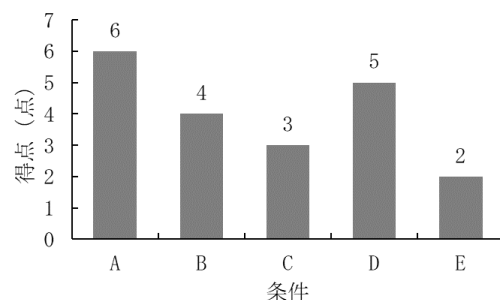


図1 見本

記載する（和文誌・英文誌で分けない）。1つの書誌情報が2行以上にわたる場合は、2行目以降を右に全角2文字分インデントして記載する。

4. 原稿投稿の手引

4.1. 著作権、他者の人権等への配慮

原稿執筆に際しては、他者の著作権や、研究に関わる個人・集団（研究対象となった個人・集団や研究に関連のある個人・集団）のプライバシーや名誉に関する十分な配慮のもとに行う。詳しくは、「日本教育工学会論文誌投稿規程」  
(<https://www.jset.gr.jp/journal/requirements-for-submissions/>)の「2. 投稿原稿の著作権について」以降をご確認いただきたい。

4.2. 原稿ファイルの投稿

原稿は、当該の全国大会 Web ページにある「発表登録」を行った後、マイページにて発表申込時に発行された「登録番号」と「パスワード」を使用して電子投稿する。発表原稿のファイル形式は PDF 形式（サイズは 10M バイトまで）とする。なお、本テンプレートは3ページにわたっているが、2ページ以外の原稿は受け付けない。また、原稿の電子メールでの投稿は、原則として受け付けない。

参考文献

堀田龍也（2021）初等中等教育のデジタルトランスフォーメーションの動向と課題. 日本教育工学会論文誌, 45(3): 261-271

表 1 見本 II 本文中での引用表記

| 著者人数  | 表記                                                                                                             |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 人   | 堀田（2023）によると…<br>HORITA（2023）では…<br>…と述べられている（堀田 2023）.<br>…と述べられている（HORITA 2023）.                             |
| 2 人   | 堀田・小柳（2023）によると…<br>HORITA and OYANAGI（2023）では…<br>…と述べられている（堀田・小柳 2023）<br>…と述べられている（HORITA and OYANAGI 2023） |
| 3 人以上 | 堀田ほか（2023）によると…<br>HORITA <i>et al.</i> （2023）では…<br>（ <i>et al.</i> はイタリック体にし、ピリオドを付ける）                       |

Information and Technology in Education and Learning（2020）Author guidelines .  
<https://www.j-itel.org/guidelines.html>  
(accessed 2023.04.01)

一般社団法人日本教育工学会（2024）投稿規程 .  
<https://www.jset.gr.jp/journal/requirements-for-submissions/> (参照日 2024.09.27)

小柳和喜雄, 杉本喜孝（2021）STEAM 教育を学校組織で進めていく際の研究主任チームの役割. 日本教育工学会研究報告集, 2021(1):14-19.